

tional Congress Series 620.

- 8) Kisou Kubota (1982): Prefrontal neuron activities, reversal and error performance., Conditioning, Edited by Charles D. Woody (Plenum Publishing Corporation, 333-343.
- 9) 久保田競 (1983): 脳と栄養・生活衛生, 27, 52-66.
- 10) 久保田競 (1983): 「脳と心」について, 人間の生命について考える。218-221, 医学研究振興財団編, 講談社。
- 11) 久保田競 (1983): 人間の脳, チンパンジーの脳。科学, 53, 280-283.

## 論文

- 1) Asano, T., Kojima, T., Matsuzawa, T., Kubota, K. and Murofushi, K. (1982): Object and Color Naming in Chimpanzees (Pan troglodytes) Proc. Japan Acad., 58 Ser. B, 118-122.
- 2) Hamada, I. and Kubota, K. (1982): Bidirectional activation of slow pyramidal tract neurons during slow visual tracking in monkeys., Neurosci. Lett. Suppl. 9, S48.
- 3) Funahashi, S. and Kubota, K. (1982): Prefrontal neuron activity during a visual tracking task and substantia innominata stimulation., Neurosci. Lett. Suppl. 9, S62.
- 4) Ito, S. (1982): Prefrontal unit activity of Macaque monkeys during auditory and visual reaction time tasks., Brain Res., 247, 39-47.
- 4) Matsunami, K., Kageyama, T. and Kubota, K.: Incorporation of radioactive glucose into the monkey's brain during the voluntary wrist movement, 第58回生理学会大会 (1983)。

## 心理研究部門

室伏靖子・浅野俊夫  
小嶋祥三・松沢哲郎

## 研究概要

### 1) チンパンジーの人工語の習得<sup>1)</sup>

室伏靖子・浅野俊夫  
小嶋祥三・松沢哲郎

図形語による物体名, 色名, 数に加えて, 実験者およびチンパンジーの固有名詞を訓練し, 各種の名詞の特徴と関係が, 高次の概念形成の観点から分析された。

### 2) 霊長類乳幼児の認知機能の発達

室伏靖子・松沢哲郎

チンパンジーとニホンザルを主たる対象として, 出生直後からの知覚・認知機能の発達を身体・運動・生理的な発達と関連させて観察した。

### 3) ニホンザルの集団場面におけるオペラント行動の獲得と伝播<sup>2)</sup>

浅野俊夫

本研究所内の放飼場の内部に, パネルを押すと大豆等の食物が提示される自動給餌装置を設置し, この新しい食物入手方法が群れの中に定着する過程を観察し, 習得過程やその後の維持反応と社会的順位などとの関係を分析している。

### 4) オペラント強化の性質に関する実験的研究

浅野俊夫

主としてニホンザルの摂食行動を取りあげ, 摂食スケジュールがオペラント行動の強化にどのように関与するのかを, 近年のエコロジー的視点と環境適応における行動の配分 (行動経済) という観点から分析する。

## 学会発表

- 1) 松村道一: 運動野錐体路細胞に皮質内局所的に単シナプス結合しているニューロンの分布について。第6回神経科学学会 (1983)。
- 2) J. Liu, 久保田競: 温度, 痛み刺激に反応するサル前頭前野ニューロン活動について, 第6回神経科学学会 (1983)。
- 3) 松波謙一, 久保田競: 遅延反応と [ $^{14}\text{C}$ ]-2-deoxy-d-glucose (2-DG) の脳内取り込み部位。第6回神経科学学会 (1983)。

- 1) 久保田競 (神経生理部門), 長尾真 (京大工学部), 神尾昭雄 (筑波大現代語現代文化学系) との共同研究
- 2) 樋口義治 (愛知大・学振流動研究員) との共同研究

## 5) 音の弁別と記憶に関する研究

小 嶋 祥 三

チンパンジーとニホンザルで、反応時間課題をもちいて、純音やヒトの合成音声の弁別を行なわせ、これら霊長類の聴認知機能を検討した。また、ニホンザルで、Go/NoGo式遅延見本合わせ、遅延条件性位置弁別課題をもちいて、音の記憶に対する試行間隔、サンプル刺激呈示時間、遅延時間操作の効果を検討した。加えて、複数のサンプル刺激を与えて、系列位置効果を検討した。

## 6) チンパンジーの視知覚機能の心理物理学的測定

松 沢 哲 郎

チンパンジーの色知覚等の視知覚機能をその行動を通じて解析する。人工言語による言語反応、見本合わせ、感覚性強化による資料をもとに知覚の尺度構成をこころみた。

## 7) 食物嫌悪条件づけによる野生ニホンザルの食性の統制<sup>3)</sup>

松 沢 哲 郎

ニホンザル野生群を対象として、催吐剤を用いた嫌悪条件づけにより、特定食物に対する嫌悪を人為的に形成できることがわかった。食物選択の戦略の解明をすすめている。

## 8) ニホンザルの弁別学習に及ぼす強化スケジュールの効果の検討

藤 田 和 生<sup>4)</sup>

弁別課題の習得の速さ、および、形成された弁別の精度の維持が、その弁別行動を強化するスケジュールによってどのように影響されるか検討している。

## 9) 条件性強化子の成立要件の検討

藤 田 和 生

ニホンザルの observing behavior の分析を通じて、条件性強化子が「強化に関する情報」に基づいて成立するかどうかを検討している。

## 10) 感覚性強化を用いた霊長類の認知世界の分析

藤 田 和 生

3) 長谷川芳典(京大文学部), 東 滋(社会部門), 和田一雄(変異部門), 後藤俊二(サル施設), 川村俊蔵(社会部門), との共同研究

## 4) 学振奨励研究員

霊長類がヒト, サル, 物などをどのように把握分類しているかを, それらの感覚性強化子としての機能に基づいて分析する。

## 総 説

- 1) 室伏靖子(1982): なぜチンパンジーにことばを? 類人猿の言語的行動について。サイコロジー, 28, 33-38。
- 2) 室伏靖子(1983): チンパンジーに数を教える。"現代の行動生物学4", pp 177-187, 産業図書。
- 3) 室伏靖子(1983): 言語的行動。"現代基礎心理学第9巻 発達 I", pp 63-78, 東大出版会。
- 4) 室伏靖子(1983): チンパンジーの概念学習。動物と自然, 13(3), 2-7。
- 5) 小嶋祥三(1983): 霊長類の神経心理学の近況。サイコロジー, 38, 40-47。
- 6) 松沢哲郎(1982): 言語の系統発生的基盤。言語, 11(9), 61-69。
- 7) 松沢哲郎(1983): チンパンジーから見た世界。発達, 15, 26-33。
- 8) 松沢哲郎(1983): 認識の進化——チンパンジーによる「文法」の生成——。生物科学, 印刷中。

## 論 文

- 1) Kojima, S. & Goldman-Rakic, P. S. (1983): Functional analysis of spatially discriminative neurons in prefrontal cortex of rhesus monkey. *Brain Res.* (in press) .
- 2) Matsuzawa, T. & Hasegawa, Y. (1982): Food-aversion conditioning in Japanese monkeys (*Macaca fuscata*): Suppression of key pressing. *Behav. Neural Biol.*, 36, 298-303.
- 3) Matsuzawa, T. & Hasegawa, Y. (1983): Food-aversion learning in Japanese monkeys (*Macaca fuscata*): A strategy to avoid a noxious food. *Folia Primat.*, 40, 247-255.
- 4) Matsuzawa, T., Asano, T., Kubota, K. & Murofushi, K. (1983): Acquisition and generalization of numerical labeling by

a chimpanzee (*Pan troglodytes*). *Selected papers from the IXth International Congress of Primatology*, (in press).

- 5) Fujita, K. (1982): An analysis of stimulus control in two-color matching-to-sample behaviors of Japanese monkeys (*Macaca fuscata fuscata*). *Jap. Psychol. Res.*, 24, 124-135.
- 6) Fujita, K. (1983): Acquisition and transfer of a higher-order conditional discrimination performance in the Japanese monkey. *Jap. Psychol. Res.*, 25, 1-8.

#### 報告・その他

- 1) 浅野俊夫・樋口義治(1983): ニホンザル野生群における学習行動の伝播。文部省科学研究費研究成果報告書。
- 2) 小嶋祥三(1983): 霊長類の音の記憶に関する研究。文部省科学研究費研究成果報告書。
- 3) 松沢哲郎(1982): 霊長類の子育て私見。発達, 12, 92-94。
- 4) 松沢哲郎(1983): 食物嫌悪条件づけの基礎。文部省科学研究費研究成果報告書“食物嫌悪条件づけによる野生生物の食性の統制”, 7-18。

#### 学会発表

- 1) Acquisition and generalization of numerical labeling by a chimpanzee.  
Murofushi, K., Matsuzawa, T.,  
Asano, T. & Kubota, K.  
第9回国際霊長類学会(1982)
- 2) ニホンザル野外群におけるオペラント行動の獲得(3)  
樋口義治・浅野俊夫  
日本心理学会第46回大会(1982)  
発表予稿集, 111
- 3) 行動観察用電子メモ装置とそのデータ処理について  
浅野俊夫・樋口義治  
日本心理学会第46回大会(1982)  
発表予稿集, 435
- 4) 閉鎖食物環境におけるニホンザルのFR反応  
浅野俊夫  
日本基礎心理学会(1982)

- 5) ニホンザル野外群におけるオペラント行動の獲得(4) ボスザルのシェーピング  
樋口義治・浅野俊夫  
日本基礎心理学会(1982)
- 6) 霊長類の音の記憶に関する研究  
小嶋祥三  
日本心理学会第46回大会(1982)  
発表予稿集, 115
- 7) チンパンジーにおける図形パターンの知覚  
松沢哲郎  
日本動物心理学会第42回大会(1982)  
動心年報, 32, 40
- 8) チンパンジーにおける数の命名の習得と般化  
松沢哲郎・室伏靖子  
日本心理学会第46回大会(1982)  
発表予稿集, 114
- 9) ニホンザルの奥行視の発達に関する研究(2)  
原政敏・辻敬一郎・林部敬吉  
松沢哲郎  
日本心理学会第46回大会(1982)  
発表予稿集, 83
- 10) 飼育チンパンジーの出産時行動観察2例  
熊崎清則・松沢哲郎・松林清明  
第27回プリマーテス研究会(1983)  
抄録, 12
- 11) 乳児期のニホンザルにおける姿勢反応  
竹下秀子・田中昌人・松沢哲郎  
第27回プリマーテス研究会(1983)  
抄録, 40
- 12) ニホンザルにおける食物選択の戦略  
松沢哲郎・後藤俊二・東 滋  
長谷川芳典・和田一雄  
第27回プリマーテス研究会(1983)  
抄録, 53
- 13) ニホンザルにおける「同・異」概念の形成  
— フリーオペラントの効果 —  
藤田和生  
日本心理学会第46回大会(1982)  
発表予稿集, 113

#### 社会研究部門

川村俊蔵・東 滋  
鈴木 晃・小山直樹  
森 梅代・足沢貞成